

堺市東区政策会議活動内容について（文化案）

居場所…昔は、良い意味でお節介おっちゃん、おばちゃんが多く、その場所が、子ども達の居心地の良い居場所になっていたのではないのでしょうか。近年は、子育て世帯の近所付き合いという文化が減少してきてるが、果たして「良い繋がりを持てる文化」を無くしてしまってもいいのか。

1 目的

- ① 日常生活（継続的環境）で、何かあれば相談できる「おっちゃん、おばちゃん」の居場所について、地域の子ども達に知ってもらう。（認知度の向上）
- ② 子ども達の居場所づくりに取り組んでる活動を通じて、様々な**文化と教育**をつなげ、広げていく

2 内容

① 実施時期

例) 夏休み期間中に2日間で実施

初日は各団体で自由に思い出づくり、2日目は思い出から「絵・もの」を製作
完成した「絵・もの」をひがしふれあい文化祭で展示

② 実施主体

こども~子育て世帯への現在、活動している個人・団体（月1回以上活動）を選定

【選定は校区会長に決定権を有し、活動は、団体等が行う】

※団体等は、ここに行けば月1回会えるという「居場所での取組」を行っていること

③ 参加者

役所でチラシ作成、ツイッターなどで周知

参加したい住民の方が各団体に申し込み

各団体で受入れ可能な人数を受入れ

④ 経費

製作の費用は、役所が負担（絵の具や材料などを現物でお渡し）

3 結果

- ・団体等と子ども達45名以上が日常の繋がりができる
- ・経験した子ども達が、無限大に居場所という文化を広げてくれる「先駆者」となる。
- ・団体等を掘り起こす事が居場所を増加するきっかけとなる。